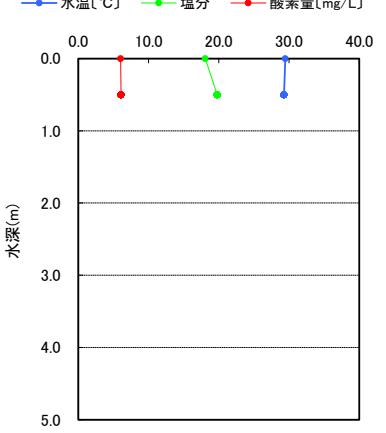
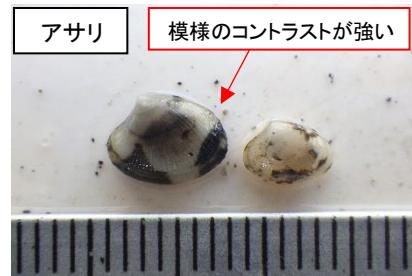


令和5年度 東京都内湾水生生物調査 8月底生生物調査速報

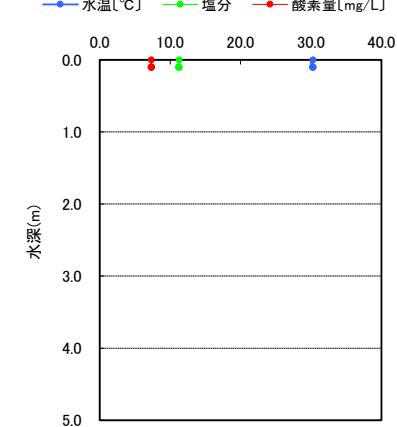
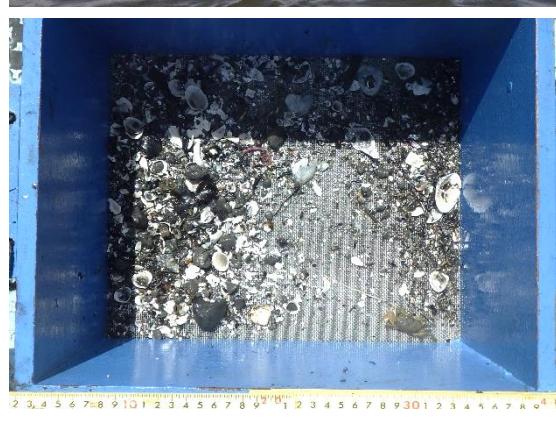
東京都内湾水生生物調査

地点名	St.31(多摩川河口)	調査年月日	令和5年8月30日 9:15~10:22																											
<調査地点>		<底質状況、底生生物出現状況> ※写真のスケール1目盛:1mm																												
			多摩川河口から1.5km付近の浅場で調査を行った。水深は0.6mであり、船上から採泥した。																											
	 <p>水温[°C] 塩分 酸素量[mg/L]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>水深(m)</th> <th>水温[°C]</th> <th>塩分</th> <th>酸素量[mg/L]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.0</td> <td>28.0</td> <td>32.0</td> <td>2.0</td> </tr> <tr> <td>1.0</td> <td>28.0</td> <td>32.0</td> <td>2.0</td> </tr> <tr> <td>2.0</td> <td>28.0</td> <td>32.0</td> <td>2.0</td> </tr> <tr> <td>3.0</td> <td>28.0</td> <td>32.0</td> <td>2.0</td> </tr> <tr> <td>4.0</td> <td>28.0</td> <td>32.0</td> <td>2.0</td> </tr> <tr> <td>5.0</td> <td>28.0</td> <td>32.0</td> <td>2.0</td> </tr> </tbody> </table>	水深(m)	水温[°C]	塩分	酸素量[mg/L]	0.0	28.0	32.0	2.0	1.0	28.0	32.0	2.0	2.0	28.0	32.0	2.0	3.0	28.0	32.0	2.0	4.0	28.0	32.0	2.0	5.0	28.0	32.0	2.0	 <p>ふるいには貝殻片が残った。</p>
水深(m)	水温[°C]	塩分	酸素量[mg/L]																											
0.0	28.0	32.0	2.0																											
1.0	28.0	32.0	2.0																											
2.0	28.0	32.0	2.0																											
3.0	28.0	32.0	2.0																											
4.0	28.0	32.0	2.0																											
5.0	28.0	32.0	2.0																											
底質の状況																														
底質は細かい砂であった。																														
アサリ 模様のコントラストが強い			 <p>三枚洲や多摩川河口域周辺は、アサリの生息場所となっており、東京湾における幼生の供給源となっている(粕谷 2005)※。東京湾のアサリははっきりとした模様が多い。</p>																											
アラムシロ			 <p>殻高15mm程になる。殻の表面には粗い粒状突起が並ぶ。干潟から水深3mの砂泥底に生息する。魚や貝の死骸を食べる性質があり、「海の掃除屋」と呼ばれている。</p>																											
カガミガイ			 <p>殻長7cm程になる。殻は白色で殻質はやや厚い。内湾の干潟から水深20mの砂泥底にやや深く潜って生活する。</p>																											
ホトギスガイ			 <p>砂泥底に生息するムラサキガイの仲間。富栄養な海域では互いに足糸(そくし)を絡ませて集団で泥の表面を覆い、マット状になることが多い。</p>																											
ミズヒキゴカイ			 <p>砂泥干潟や浅瀬の海底に潜り、水引に見立てられる細い糸のような鰓と触手を水中に伸ばしていることが多い。かなり汚れた環境でも生息している。</p>																											

※ 粕谷智之, 2005 :東京湾におけるアサリ浮遊幼生の動態. 水産総合研究センター研究報告別冊, 3: 51-58

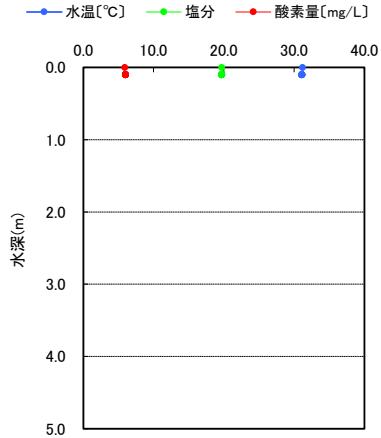
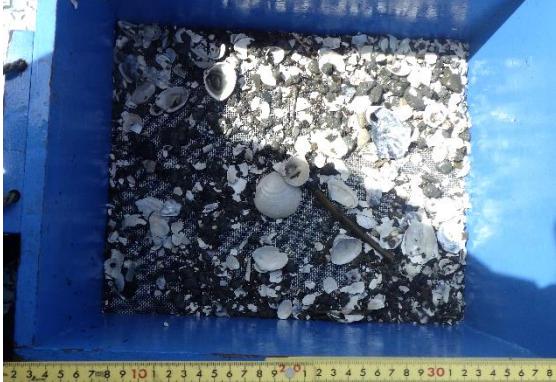
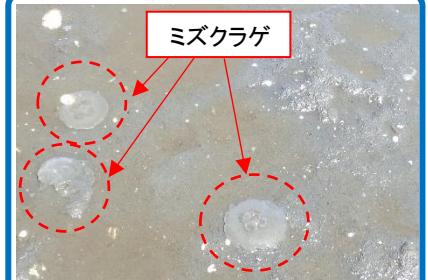
令和5年度 東京都内湾水生生物調査 8月底生生物調査速報

東京都内湾水生生物調査

地点名	多摩川河口干潟	調査年月日	令和5年8月30日 10:27~11:15																																			
<調査地点>		<底質状況、底生生物出現状況> ※写真のスケール1目盛:1mm																																				
	 <p>多摩川河口干潟</p>		多摩川左岸側(東京都側)の海老取川河口付近の干潟で調査を行った。																																			
	 <p>水温[°C] 塩分 酸素量[mg/L]</p> <table border="1"> <tr> <td>0.0</td> <td>10.0</td> <td>20.0</td> <td>30.0</td> <td>40.0</td> </tr> <tr> <td>0.0</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>1.0</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2.0</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3.0</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4.0</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5.0</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>水深(m)</p>	0.0	10.0	20.0	30.0	40.0	0.0	●	●	●	●	1.0					2.0					3.0					4.0					5.0						貝殻片や植物片などの夾杂物が交じる。
0.0	10.0	20.0	30.0	40.0																																		
0.0	●	●	●	●																																		
1.0																																						
2.0																																						
3.0																																						
4.0																																						
5.0																																						
	 <p>底質の状況</p>	 <p>ヤマトシジミ</p>	 <p>ムロミスナウミナナフシ</p>																																			
	底質は細かい砂の混じったシルトであった。	殻長 4cm 程になる。汽水域の砂底から泥底に生息するが、河口域にいるものは出水等の影響を受けやすい。	体長 2cm 程になる、フナムシに近い仲間。細長い円筒状の体をしており、白地に褐色の斑紋がある。干潟の表層部に巣穴を掘って生活する。																																			
	 <p>ヤマトオサガニ</p>	 <p>チロリ属</p>	 <p>紐形動物門</p>																																			
	干潟でよくみられるカニ。甲幅 4cm 程になり、柔らかく水分の多い泥干潟に斜めの穴を掘って巣穴を作る。巣穴の入り口には放射状の浅い溝ができる。	体長 10cm 程になる。4 つの鋭い吻(ふん)を『ちろり』と出して、干潟の小動物を捕らえる。写真の個体の吻は、体内にしまい込まれている。	「ヒモムシ」と称される動物群。文字通り紐状で、とてもちぎれやすい。肉食性で、生きた多毛類などを体内に収納している吻を伸ばして捕食する。																																			

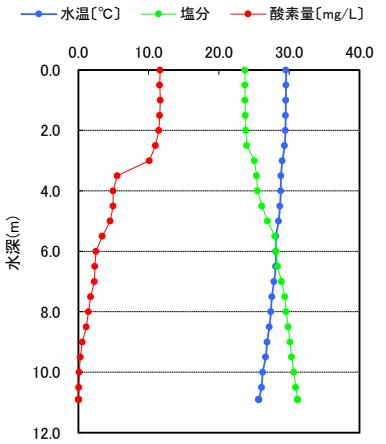
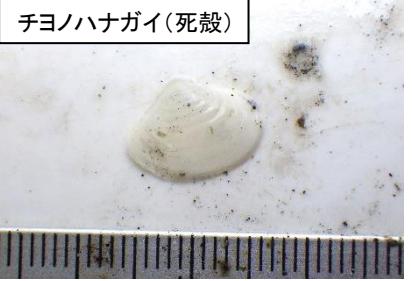
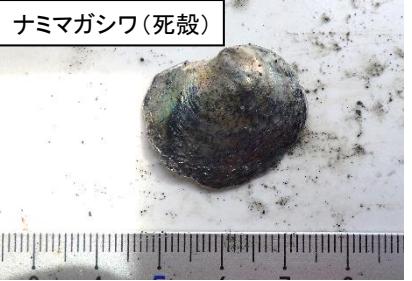
令和5年度 東京都内湾水生生物調査 8月底生生物調査速報

東京都内湾水生生物調査

地点名	森ヶ崎の鼻		調査年月日	令和5年8月30日 11:18~12:28	
<調査地点>		<底質状況、底生生物出現状況>			※写真のスケール1目盛:1mm
 森ヶ崎の鼻		 羽田空港の北側に残された干潟。干潮時でも周囲は「海」に取り囲まれているため、岸から歩いて入ることはできない。			
 ● 水温[℃] ● 塩分 ● 酸素量[mg/L]		 ふるい上には貝殻片が多数残った。			
底質の状況 		採泥状況 		ムロミスナウミナフシ 	
底質は細かい砂の混じった粘土であった。		干潟に降り、小型の採泥器を用いて採取した底泥を容器に移す。		※解説は多摩川河口干潟を参照。	
ミズヒキゴカイ 		ゴカイ科 		ミズクラゲ 	
※解説は St.31 を参照。		生活様式も食性も多様な生物。また、ゴカイ科を含め多毛類はたくさんの生物の餌となっている。肉眼での識別が難しいため、ゴカイ科とした。		調査地点付近で多数のミズクラゲが取り残されていた。最も普通にみられるクラゲであり、高水温等によりたびたび大量発生し、漁業や工業に悪影響を及ぼしている。	
【調査対象外】					

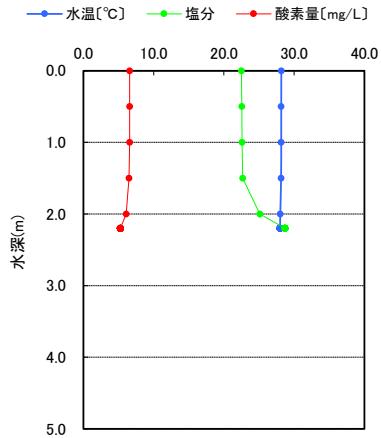
令和5年度 東京都内湾水生生物調査 8月底生生物調査速報

東京都内湾水生生物調査

地点名	St.6	調査年月日	令和5年8月30日	13:55～14:50
<調査地点>		<底質状況、底生生物出現状況>		
		※写真のスケール1目盛:1mm		
			<p>東京港フェリーターミナルの正面で船上から採泥を行った。航路であるため、水深は 11.9m と深い。</p> <p>水深 7.0m 付近から貧酸素状態にあり、水底付近はほぼ無酸素状態であった（貧酸素状態：2.0mg/L 以下とした）。</p>	
			<p>ふるい上には貝殻片が多数残った。</p>	
<p>底質の状況</p> 		<p>ムラサキイガイ(死殻)</p> 	<p>内湾の泥底に生息する。殻は非常に薄いため、もろく壊れやすい。貧酸素化水塊でも酸素がある期間に短期的に発生する。</p>	
<p>底質はシルトで、クリーム状でとても柔らかく、若干の硫化水素臭(腐卵臭)があった。</p>		<p>チヨノハナガイ(死殻)</p> 		
<p>マメウラシマ(死殻)</p> 		<p>ヒメカノコアサリ(死殻)</p> 	<p>内湾の砂泥底に生息する。殻は薄く、強い放射肋(ほうしゃろく)が特徴。</p>	
<p>水深 5 m 以深の泥底に生息する小型の巻貝。厚く光沢のある殻を持つ。</p>		<p>ナミマガシワ(死殻)</p> 	<p>不定形で薄い二枚貝。色とりどりの左殻と半透明で非常に薄くもろい右殻を持つ。右殻から出る足糸(そくし)を石灰化し、岩等に固着する。</p>	

令和5年度 東京都内湾水生生物調査 9月底生生物調査速報

東京都内湾水生生物調査

地点名	三枚洲(荒川河口)	調査年月日	令和5年9月6日	9:22~10:40																							
<調査地点>		<底質状況、底生生物出現状況>		※写真のスケール1目盛:1mm																							
	 <p>三枚洲</p>			<p>荒川と旧江戸川の河口に残された天然の浅場。すぐ横は東京ディズニーリゾートである。水深が2.5mと深いため、船上から採泥した。</p> <p>※本地点のみ9/6に調査を行った(8月調査時は、強風により調査ができなかったため)。</p>																							
	 <table border="1"> <thead> <tr> <th>水深(m)</th> <th>水温[°C]</th> <th>塩分</th> <th>酸素量[mg/L]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.0</td> <td>28.0</td> <td>33.0</td> <td>30.0</td> </tr> <tr> <td>1.0</td> <td>27.0</td> <td>32.0</td> <td>29.0</td> </tr> <tr> <td>2.0</td> <td>26.0</td> <td>31.0</td> <td>28.0</td> </tr> <tr> <td>3.0</td> <td>25.0</td> <td>30.0</td> <td>27.0</td> </tr> <tr> <td>4.0</td> <td>24.0</td> <td>29.0</td> <td>26.0</td> </tr> </tbody> </table>	水深(m)	水温[°C]	塩分	酸素量[mg/L]	0.0	28.0	33.0	30.0	1.0	27.0	32.0	29.0	2.0	26.0	31.0	28.0	3.0	25.0	30.0	27.0	4.0	24.0	29.0	26.0	 <p>ふるい上には少量の貝殻片が残った。</p>	
水深(m)	水温[°C]	塩分	酸素量[mg/L]																								
0.0	28.0	33.0	30.0																								
1.0	27.0	32.0	29.0																								
2.0	26.0	31.0	28.0																								
3.0	25.0	30.0	27.0																								
4.0	24.0	29.0	26.0																								
	<p>底質の状況</p> 	<p>ホンビノスガイ</p> 	<p>マテガイ</p> 	<p>大きなものでは10cm以上になる縦長の二枚貝。砂底に縦穴を掘って潜っているが、急激な塩分の変化等の刺激を受けると飛び出すことが知られている。また、生活環境が良くないと移動する習性がある。</p>																							
	<p>アサリ</p> 	<p>シオフキ</p> 	<p>シノブハネエラスピオ</p> 	<p>※解説はSt.31を参照。</p> <p>殻長5cm程になる。内湾奥の干潟域等の砂泥底に生息する。殻の色は白色から紫褐色まで変異が多い。</p> <p>東京湾の内湾部で多くみられる多毛類の一種で、3対の鰓がある。貧酸素環境に耐性があり、有機汚濁指標種となっている。</p>																							